

毎日歌壇

伊藤 一彦選

馬鹿馬鹿し少子化なんぞ当たり前 三十年の
無為を忘れない 大阪市 タカエレイコ

△評▽政府の小手先の少子化対策を「無為」と断じる作者。今日の少子化現象は無為の当然の結果であると痛烈に批判する。

枝は枯れ幹は折れても憎しみの木の根は死な
ず報復を期す 仙台市 多田 直文

△評▽世界の歴史は報復の歴史だと思いつつ、被害者加害者両方の今後を考える作者。

空爆をされたガザ市に立ちすくむHOPPE
のロゴのシャツの少年 三条市 甘 辛

滑りますので気をつけてといわれて店を出た
後の温かい冬 新潟市 芽結 零

賢沢を好まなかった婆ちゃんのリナルのマ
ークみたいな入れ歯 松原市 たろりずむ

喧嘩した朝も手作りおにぎりの梅干しの種は
ちゃんと抜かれてる 京都市 小池ひろみ

来たる待ち合わせ 京都市 よだか

丘の墓所向かひの山の裾近く今は空き家の母
の家見ゆ 神戸市 中林 照明

真四角の箱を抱きしめ人間をラッシュに探す
人間の声 四日市市 早川 和博

日本に生まれただけで充分と言ひつつ憂ふ先
の先の世 瑞穂市 渡部 芳郎

米川千嘉子選

日の丸を襷掛けして出征の父を掲げて家古
びたり 大阪市 下川 佳子

△評▽戦地へ出発する勇ましい姿を写真に
残して還らなかつた父。家族も家も父の無
念とともにあり続けた。重い詠嘆だ。

嗚咽するわたしのことを世界からひととき隠
し音姫うたう 東京 石川 真琴

△評▽「音姫」はトイレの消音装置。結句
の軽やかさがかえって痛みを伝える。

五人の子を育て上ぐれど独り子の育児楽しむ
吾子には敵はず 千曲市 中村 美樹

癒えたならリハビリメイクしやうかと欠伸の
あとに妻の言ひたり 南相馬市 児玉 那一

本州のキハ40は絶滅し落人のごと九州走る
日南市 宮田 隆雄

買取やキックバックはちらりと見元気がた
く記事をしつくり 幸手市 中村 早苗

洗っても皿にぬめりが残ってるまるであなた
への未練のように 広島市 堀 真希

キャッシュレスペーパーレスにセルフレジせめ
て買状を手書きに戻す 札幌市 佐々木さと子

ただ一度郷里でバイクに相乗りの十代を君は
覚えてゐるや 坂戸市 納谷香代子

苦情などクリスマス精神じゃない 予約の
ケーキの引き換えの列 東京 檀 ゆか

加藤 治郎選

たましいの箱はわたしで たましいも箱であ
なたの声が聞こえる 宇都宮市 霧島あきら

△評▽思索的な作品である。たましいはわ
たしの中にある。たましいも何かをいれる
箱なのだ。あなたへの深い思いがある。

許すって十回言って そのあとで許せとさっ
かり言っただけから 大津市 世田 夏雪

△評▽本当は許せと言っただけなのに。その言
葉を引き出したいという気持ちが切ない。

あくる朝あなたは雪のようでした 声をつま
らせて覚める夢 平塚市 芝澤 樹

ごめんねと油断させただけなんだと、あな
たは言った夢の中でも 福岡市 横井マリノ

台無しにしたい たとえは階段に伸びきって
乾くカップヌードル 三鷹市 菅原 海香

明日からはぐんと寒いと聞かされて透明の瘦
せた子猫を抱く 京都市 小川 ゆか

わからない、へいわってなに ねえプロバガンダ
にパンダが隠れているね カナダ よだか

ぼつりと「お疲れさま」のメモひとつ青い
リンゴが笑ったような 大阪市 吉田 昌之

傷薬として時々開くのは過去にもらったRe・
Re・Reのメール 横浜市 友常 甘酢

リビングの灯りをふっと消すように閉じられ
たならずとしいのに 中国 岸 志帆莉

水原 紫苑選

暴かれる嘘を吐くとき言語野をほの暗くして
咲くラフレシア 東京 石川 真琴

△評▽世界最大の花ラフレシアのまがまが
しい姿が、暴かれるウソを浮かび上げらせ
る。花も美しいだけではない。

冬薔薇とふ語を思ふたび胸に拓ける澄んだR
PG 横浜市 永永 キヌ

△評▽古風な花の名がひらく新しいゲーム
の世界は、もうひとつの宇宙かもしれない。

未練がましく振り向けば漁火のようにあな
たのピアスが揺れる 京都市 よだか

永遠を知りもしないで交わすの永代供養の
ような約束 京都市 小池ひろみ

許すときひかりが飛ぶの金属の加工とおなじ
やり方だから 横浜市 瀬生ゆう子

肉体を甕づつためたような青 水族館をひと
りで周る さいたま市 雨谷 詩穂

そこからは廃道だからそれまでを思い出せた
ら地名をください 豊橋市 太田 貴大

いつからか骸だろわか降り積もり溶け残り
たる雪の執着 東京 富見井高志

満月が熊野古道にさしこめば山のけもの騒
めく気配 東大阪市 池中 健一

潮風と青草の香に充たされて馬だったころへ
還りゆきたり 春日井市 長谷川怪子

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます